

eラーニングを用いた教員免許更新講習における 履修モデルの提案

砂原 悟^{*1}, 大河内 佳浩^{*1}, 小松川 浩^{*1}

^{*1} 千歳科学技術大学

Proposal of a Learning Model in web-based Renewal Course

Satoru Sunahara^{*1}, Yoshihiro Ookouchi^{*1}, Hiroshi Komatsugawa^{*1}

^{*1} Chitose Institute of Science and Technology

Certificate Renewal Course System was introduced from 2009 in Japan. We have conducted the course using web-based Learning from 2009. We created a Learning model from the number of students and latest learning materials. This model corresponds to changes in educational environment. We will introduce the 2017's results.

キーワード: 遠隔授業, 履修モデル, 教員免許更新講習

1. 背景と取り組み

平成 21 年 4 月より導入された教員免許更新講習(以下, 講習)の目的は, 教員として必要とされる資質・能力の維持・更新であり, 教師教育の一面も併せ持つ制度である⁽¹⁾. 講習は様々な大学や大学共同利用機関に任されているが, 全国各地で実施されている対面講習のデータを集約し, 受講者のニーズを集約することはなかなか難しい. 本取り組みでは全国規模で実施している Web ベースの講習から受講者情報を集約し, 各学校種において履修傾向を反映させた履修モデル(講習の組み合わせ)を提供することで, 教育環境の変化や時代の進展を反映させた教師教育の実現を目指した.

2. 検証環境

KAGAC eラーニング教員免許更新講習推進機構(以下, KAGAC)では平成 21 年度より, 毎年 2000 人規模の eラーニング講習を行ってきた⁽²⁾. 開講した講習数は平成 28 年度 29 講習, 平成 29 年度は 41 講習であり, 全ての教諭(教諭, 養護教諭, 栄養教諭)において免許状の更新が可能となっている.

3. 作成した履修モデル

一般的に各講習は主な受講対象者として学校種(幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校, 支援学校)が設定されている. KAGAC では, 中学校及び高等学校を受講対象者とする講習について文系, 理系の属性を割り当てることで, 対象者の細分化を行った. また, 教育学部のレビューを受けながら, 各講習に「基礎教育」「授業実践」「スキルアップ」の講習性質を割り当てた. 受講者へ提示するモデルはバランスの観点から全ての講習性質を網羅できるようにした. また, 各講習において「受講者数の多さ」と「最新の講習」がモデルにおいて重要な指標であると考えた. 受講者数が多い講習は, 多くの受講者が興味を持つ講習内容であると言い換えることができる. 新規に作成された講習は, 新しい学習指導要領に対応した講習が多く, 必要性が高い. 受講生数の多さと新規性は比較が難しいため, 平成 28 年度の受講傾向と平成 29 年度の新規講習の情報に基づいてモデルを作成した. 作成したモデルの一部を図 1, 図 2 に示す.

対象	必修領域	選択必修領域	選択領域①	選択領域②	選択領域③
幼稚園教諭	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題
小学校教諭	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題
中学校教諭(国語)	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題
中学校教諭(理科)	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題
高等学校教諭(理系)	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題
高等学校教諭(文系)	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題
特別支援学校教諭	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題
養護教諭	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題
学芸員	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題

図 1 受講者数が多い講習から作成した履修モデル

対象	必修領域	選択必修領域	選択領域①	選択領域②	選択領域③
幼稚園教諭	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題
小学校教諭	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題
中学校教諭(国語)	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題
中学校教諭(理科)	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題
高等学校教諭(理系)	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題
高等学校教諭(文系)	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題
特別支援学校教諭	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題
養護教諭	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題
学芸員	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題	社会・子どもの変化と教育の課題

図 2 新しく開講された講習から作成した履修モデル

4. 平成 29 年度の実施結果

作成した履修モデルは平成 29 年度の教員免許更新講習にて Web ページへの掲載を行った。評価は履修モデルの参照数と各モデルの受講者数、受講後のアンケートから行った。

履修モデルの参照数は、いずれのモデルも約 5000 回参照された(集計期間 3 月～6 月)。受講生数が約 2000 名であることをから、1 ユーザあたりの平均は 2.5 回である。

各講習における高等学校教諭の受講生数を図 2 に示す。図 2 からは受講者数だけではなく、新規の講習においても、かなりの受講生数を集めていることがわかった。また、震災の年には安全に関する講習に受講者が増えることがわかった。これらの傾向は小学校教諭、中学校教諭の受講情報でも同様であった。

図 3 に受講後行った受講者アンケートの結果を示す。受講者からは概ね受講モデルが適切であったとの回答が得られた。

一方で、履修モデルに完全一致する受講者はどの学校種でも 2%以下となった。これは履修モデルを参考にしてはいるが、受講者自身が自分の専門性などを考えて講習選択を行っていると考えられる。

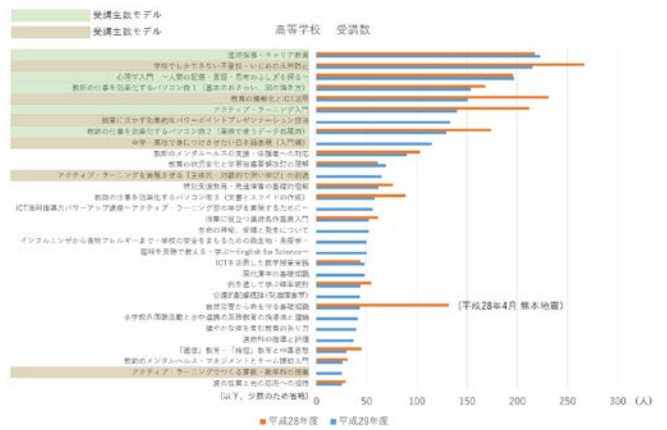


図 2 各講習と高等学校教諭の受講者数

Web ページに記載している受講モデルは適切であったか

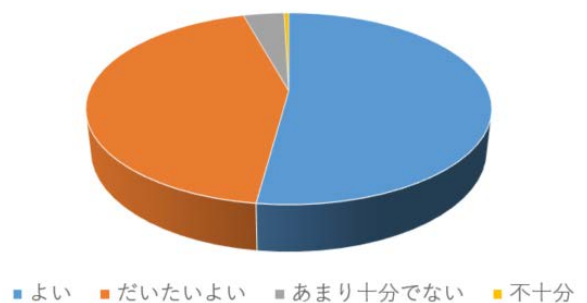


図 3 受講者による受講モデルの評価

5. まとめと今後の取り組み

本取り組みでは、講習における前年度の受講者数と最新の講習を評価軸とした履修モデルを作成した。平成 29 年度の評価では、履修モデルが参照され、いずれのモデルも受講数が上位となり、受講生の指針となっている可能性があることがわかった。今後は、新しい学習指導要領や教職課程コアカリキュラムなど、トップダウンで実施される実施される教育方針に対して、受講傾向の分析をボトムアップ形式で積み上げを行い、教師教育の改善に努めたい。

参考文献

- (1) 教員免許制度の概要
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoin/_icsFile_s/afieldfile/2014/02/20/1339300_1.pdf (2018 年 2 月 1 日確認)
- (2) 森祥寛, 佐藤正英: “e ラーニングによる教員免許状更新講習の実施報告”, PC カンファレンス 論文集, 2015, pp.249-250 (2015)